

主題	ノロウイルス蔓延防止のストッパー分析		
副題	ー感染性胃腸炎発生時のクリニカルパスとアクションプランの効果ー		
ノロウイルス		蔓延防止	
研究期間	3ヶ月	事業所	社会福祉法人康和会 特別養護老人ホーム久我山園
発表者：河野知帆、山崎達也		アドバイザー：市橋奈緒美	
共同研究者：上村美智留、横山久美			
電 話	03-3309-3211	メール	
FAX	03-3326-6054	URL	http://kugayama-en.org

今回発表の事業所やサービスの紹介	世田谷区にある久我山園は、病院が隣接しているため、感染制御のための医師や認定看護師が配置されていますので、日々、助言を受けながら感染予防を意識して、ケアを行っています。また、利用者や家族、職員に対する予防接種の勧奨や健康教育には力をいれており、ここ4年間は、利用者にインフルエンザや肺炎球菌による肺炎の発生は、ありません。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

感染症発生の成立には、宿主、病原体、感染経路の3つが必要と言われており、一つでも遮断ができれば、抑え込むことができるのは、誰もが知っていることでしょう。

しかし、その歯止めも、少しでもゆるめば、感染症発生に結びつき、ひとたび感染症が発生すれば、瞬く間に多くの利用者だけでなく、職員にも広がります。そうすると、事業の縮小をせまられ、利用者や職員の健康面だけでなく、施設の経営にも影響を与えます。

そのため、感染性胃腸炎、特にノロウイルス発生予防のために、利用者の手洗い環境をハード面から整え¹⁾、さらに、発生時のクリニカルパスを開発し、多職種が連携して初動体制を組めるようにしてきました²⁻⁴⁾。

ところが、春先だというのに、3度目のノロウイルスが発生し、ひどく落胆しました。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

通報した保健所からは、「初発者の感染源を特定することに労力を注ぎ込むより、蔓延防止に力を注いでほしい。」と助言を受けました。

その結果、発生者は利用者2名に留まり、職員への感染もありませんでした。ひとり発生すると爆発的な勢いで伝播するノロウイルスですが、ストッパーが働いた様でした。

過去2回のノロウイルスでは、2ケタの有見者になるほど広がりましたが、今回は、早い段階で抑止できました。

そこで、本研究の目的は、何故、感染症蔓延の縮小ができたのか、そのストッパーについて探索することにしました。

本研究の成果は、介護保険施設での感染制御の一助になると思います。

《3. 具体的な取り組みの内容》

研究の対象は施設内の職員で、研究方法は、平成25年5月22日にノロウイルスが発生してから6月中旬までに行った『アクションプラン』について、質的内容分析を行いました。

『アクションプラン』とは、初動的体制（短期的）と（終息に向けた）中・長期的体制における緊急会議の議事録やメモ、ヒアリング、グループディスカッションを通して得られた情報で、その中から、ノロウイルス蔓延を阻止できた要素（ストッパー）について抽出しました。

《4. 取り組みの結果と考察》

抽出されたストッパーは、下記に分類されました。

I. 初動体制の迅速性の強化

① 普段ないような多量の下痢を発見した時の対応⇒空気感染を視野に入れた対応、汚物処理の適正と簡略化、簡易検査による早期発見、感染者・非感染者の生活場所の確保、清潔区域と汚染区域の職員配置

② 開発した「感染性胃腸炎発生時のクリニカルパス」による各職種のフットワーク

II. 中・長期的な見通しの可視化

① プレーンストーミングでの課題の明確化

1) 柔軟な会議の開催

2) 課題の整理とマトリックスの作成

② 災害等発生時の備蓄の効果的な使用

1) ガウンテクニック用品の配置と利用

2) ローリングストックの活用

③ 徹底した手の消毒

1) 保湿剤が入った消毒剤の使用

2) 職員への現場教育の徹底

また、職員の罹患がなかったことで、無理な勤務体制を強いることがなく、肉体的・精神的な負担を減らすことができました。

さらに、今回は、嘔吐による症状がなく、コンパクトな汚物処理のみで完結できたことも、見逃せない点であると考えられます。

《5. まとめ、結論》

ノロウイルス蔓延のためのストッパーは、初動体制のアクションプランを、空気感染も念頭に置きながら組み立てたこと、また、中・長期では、ガウンテクニック等の消耗品が、BCP（防災・減災による事業継続）によるローリングストックで賄えたことです。

今後は、中・長期アクションプランのためのクリニカルパス作成を試みたいのです。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

所属長や職員に、本研究の趣旨や個人名は匿名化すること、得られたデータは加工し、プライバシーを保護することを口頭で説明し、研究発表することの同意を得ました。

《7. 参考文献》

1) 上村美智留：感染症予防や感染症発生時の職員教育ノウハウ、介護人材育成、Vol.8 No5、67-72、日本総合研究所、2011

2) 中村みづほ、上村美智留他：感染性胃腸炎発症時のクリニカルパス—ノロウイルス患者発生時の他職種協働連携—、82-83、アクティブ福祉 in 東京、東京都社会福祉協議会、2011

3) 市橋奈緒美、上村美智留：クリニカルパスに基づく多職種連携で感染症の拡大防止を実現、介護ビジョン、76-77、2011

4) 上村美智留：ノロウイルス患者発生時の多職種連携—クリニカルパスの開発に向けて—、ふれあいケア、24-28、2012

《8. 提案と発信》

感染性胃腸炎は、予防はもちろんのこと、発生した場合の蔓延防止についても対策をねる必要があります。しかし、どんなにすばらしいマニュアルがあっても、日頃からの職員同士のコミュニケーションがなければ機動しません。また、緊急時の意識統一をいかに瞬時に行うかが鍵になります。

【メモ欄】